

平成13年2月23日

各 位

東京都千代田区神田須田町1-3

日本板紙株式会社

(コード番号3869、東証第一部)

[問い合わせ先] 企画部長 竹原俊夫

03-3251-3714

## 第2次中期経営計画の策定と亀有工場の操業停止について

当社は本日、第2次中期経営計画（平成13年度～平成15年度）を決定致しました。また、同計画の推進に関連して亀有工場の操業を停止することと致しますので、併せてお知らせ申し上げます。

### [第2次中期経営計画の概要]

1. 当社は合併直後に策定した第1次中期経営計画（平成10年度～平成12年度）及びその後の経営環境の激変に対処するための施策を盛り込んだ「見直し強化策」に基づき事業展開を進めております。

この中で大阪工場は昨年12月末に操業を停止致しました。一方、芸防工場の新抄紙機（段ボール原紙を生産）建設工事は順調に進み本年4月から営業運転に入る見込みとなっております。これにより西の生産設備の統廃合は予定通り完了し、平成13年度以降の業績に寄与するものと期待しております。

また特殊紙関係では高知工場の新抄紙機建設も平成14年3月完成を目標に着手しております。

2. 第2次中期経営計画では、更に一段の収益力強化を図るために、次の項目を重点課題としております。
  - (1) 関東3工場の再編（亀有工場の閉鎖統合）による板紙部門の競争力強化
  - (2) 現行「見直し強化策」の完遂
    - (イ) 芸防工場新抄紙機（段ボール原紙）の早期安定操業の実現
    - (ロ) 芸防工場8号抄紙機（高級白板紙）の近代化工事実施による品質・生産性の向上
    - (ハ) 芸防工場和木事業所のコストダウン対策の推進による収益改善
  - (二) 高知工場の新抄紙機建設による特殊紙事業の強化

- (3) 本年7月スタートする日本板紙共販(株)による板紙の販売基盤の強化
- (4) 段ボール事業、物流事業、板紙加工(貼合)事業など子会社の統合、育成強化によるグループ総合力の向上
- (5) 工場再編、省力化投資をベースとした生産性向上による要員の  
見直し
- (6) 資産の有効活用による財務体質の改善

以上の施策が完了する平成15年度の目標を次の通り設定致しました。

売上高	800億円
経常利益	52億円(売上高経常利益率 6.5%)
人員	785人(日本板紙共販(株)への出向者を含む)

#### [関東3工場の統合再編]

第2次中期経営計画の最重要課題である関東3工場(亀有工場、草加工場足利工場)再編問題は、平成9年10月の日本紙業株式会社と十條板紙株式会社の合併当時からの懸案課題であり、その後における事業環境の変化等を充分検討し、以下の方針と致しました。

1. 亀有工場は平成15年9月末を目途に操業を停止し、閉鎖することと致します。  
なお、同工場の跡地は売却する方針ですが、売却先及び売却時期につきましては未定であります。
2. これに伴ない現在亀有工場で生産している段ボール原紙、チップボール等は、第2次中期経営計画期間中に順次実施する草加工場と足利工場の抄紙機近代化工事により品質・生産性の向上を図り、全量供給する計画であります。永年亀有工場の製品をご愛顧頂いて参りましたお客様各位には、旧来同様将来とも供給に万全を期し、ご要望、ご期待にお応えする方針であります。

株主・お取引先・地元の各位をはじめ皆様方のご理解、ご協力を賜りますようお願い申し上げます。

(参考資料) 亀有工場の概要

以上

# 亀有工場の概要

平成13年2月23日  
日本板紙株式会社

名称	ニホンイタガミホシキカイシャ 日本板紙株式会社	カメアリコウジョウ 亀有工場
所在地	東京都葛飾区亀有3丁目49番1号	
工場長	ヤギ ヒデアス 八木 秀康	
沿革	大正2年8月 日本紙器製造株式会社(現 日本板紙株式会社)創立 大正7年10月 亀有工場完成 大正14年11月 土佐紙株式会社と合併し日本紙業株式会社亀有工場と改称 昭和27年11月 3号抄紙機稼動 昭和40年7月 5号抄紙機稼動 昭和43年1月 亀有工場を東京工場と改称 平成9年10月 十條板紙株式会社と合併し日本板紙株式会社亀有工場と改称	
従業員数	100名(平成13年1月1日現在)	
主要設備	3号抄紙機 丸網多筒式 8層 網幅2,498mm 日産能力70トン (平成12年生産数量 18,300トン) 5号抄紙機 短網コルネーション多筒式 5層 網幅5,600mm 日産能力529トン (平成12年生産数量 192,500トン)	
生産品目	3号抄紙機 色ボール、裏白ボール、チップボール 5号抄紙機 外装ライナー	
工場土地	73,600m <sup>2</sup>	